時事新報

日本は海國なり（昨日の續）

在ボストン某生

左れば愛に我商船の數を增加し我國民をして航海の術を練達せしめ眞に海國の民たるに耻ぢざらしむるは我國今日の急務と云ふべし或人の言に今日は在て我商船の數を增加せんとは解す可らず現る日本諸會社現在の船舶のみにても或は多きに過ぎ時としては搭載の荷物なきに苦むことあり云々とて既を作す者あれ共我輩を以てすれば今の日本に船の多くして荷物の少なきに苦しむことあるも其然る所以は孰れも航路を內海に限りて單に國內の荷物を運輸するが故なりと云はざると得ず然かのみならず郵船會社のみに就て今後の運命を豫言するも今より尙は多少の困難に至る可しと我輩の信ずる所なり內地の鐵道日に益々開け東西南北到る所汽車の便あらざるなきの日に至らば旅客は勿論荷物の運搬も悉く皆な鐵道の便に依り復た輕便なる船舶を利用する者あるは理の最も覩易きものにして若しも我郵船會社の目的をして後來內海の航路のみに限らしめなば其命數は指を屈して待つ可きのみ試に今日英國內地運輸の狀を視るべし石炭の如き積量重くして價安きものは尙は稀に船舶の便に賴るものなきにあらずと雖も其は滅に以て微々たるとにて內地運輸の大半は全く其便を陸路鐵道に取るものなり去れば英國商船の多き其數を知るべからざる程なれども業とする所は重も海外の運輸にあるが故に會に數の多きを憂ざるのみならず却て常に不足を訴ることあらずや故に今の郵船會社をして其業を內海に止むるの目的あらしめなば今日の船數を半減し四分一に減ずるも後來尙は搭載の荷物あるに苦むことあるべし然々世運の變遷を考ふるに其進步は實に驚くべきとにて往古通商の便は牛馬又は駱駝の背に依て安全なる陸地を通行したるものも人智漸く開くるに隨ひ風力を利用して危險なる波濤を凌ぐことを知り其勢復た一變して風力に換ふるに蒸氣力を用ひ又昔日の牛馬に依るものなく以て今の世の中となりたり然るに人智の發達は止めんとして止め難く鐵道の發明ありてより以來運輸の道變じて陸路に移り今日の勢、船舶は唯海水を隔てたる遠き國々の間にのみ用ひらるゝことは爲りたり世運の變遷察せざるべからず去れば我國の位置と云ひ世運の時機と云ひ恰も天の我に幸するものあれば此天幸を空ふするとあらば爲斷行大に海運の業を起すべきものなり前にも述べたる如く我日本は純然たる海國にして然ども海路四通の衝に當るの便ありながら我國汽船の航路は僅ふ一年數回上海に達するのみ其他西に行き東に行き苟も步を國外ふ運ぶものは必ず他國船舶の便に依らざるべからず是れ果して海國たるの所業と云ふべきか又聞く或る西洋人ゞ其所有船の水夫ふ從來支那人を雇使せしふ何分にも所業に不實のと多く甚だ面白からざるに付き之を解雇して日本人を雇ひたるに平日は其勤怠如何にも實體にして支那人の比にあらずと雖も如何ふせん少しく風波起りて船體の動搖するときは忽ち眩暈して所謂船氣を催し更に物の用を爲さず不得止之を解雇して再び元の支那人を雇ひたりと云ふ噂ゆ之れ果して何の事ぞや海國の人民ふして船體の動搖に眩暈するは恰も猿にして木に登るを如らざると一般海國の人民ふれふより大なるはなかるべし然るに、[illegible]社所有の汽船中にも多くは外人を以て其[illegible]ふ[illegible]の事は一切之ふ任ずるの例ありと云ふ[illegible]性千萬ありと云ふ可し去れば我海運を盛にして海員を陶冶するは今日の急務なると復ふ贅言を要せざる所にして其ふれを擴張し之を陶冶するの方法に就ては自ら當局者の意見もあるべく又世間種々の議論もあるべしと雖ども試ふ今我輩の所見を陳述し以て世の識者に質さんとする所のものあり固より自由貿易を以て自ら任ずる記者又はマンチエスター學派の經濟主義を以て其本尊とする論者は必ず大ふ異存あるとならんと雖ども先づ我輩の立案の第一は何噸以上の汽船を所有して一年何哩以上の航海をあす者には一艘ふ付何程かの助成費を國庫より支出して以て大船航海の道を奬勵するふ在り今日の郵船會社には既ふ年々政府よりの補助金ありて其補助金たるの一事に於ては右陳述の補助費ふ異あらずと雖ども現行の仕組は我輩の甚だ感服せざる所あり蓋し現行の補助は海運と名くる其事を補助するふ從來營業者その人其會社を補助するの實あらずして海運營業者の人に賴て船舶を利用するの目的あらしめなば其補助ふ從來の仕組をして事業を補助航路の里數又は船舶の噸數に隨て額を增減すべき筈あらずや會社を補助するとは等しく之れ補助あれども其結果に至ては大ふ異ある所のものあり蓋し其補助を其會社に限る時は補助せられたる會社のみを益して他を益せず其成迹自ら專賣特許の姿となり他ふ競爭の道を斷て却て海運の擴張を防害するふ至るべし之ふ反して海運の事を補助する時は其何人たるふ限らず苟も日本人民にして船舶を有する者は悉く補助の一部分を受け一艘を所有する者は一艘丈けの補助を受け百艘千艘其數に隨て補助せらる可きが故ふ今日の如く我航海權を一會社に專有して他を壓するが如き不都合あかるべし斯く云へば彼の自由貿易論者は必ず大に異說を唱へ人爲の保護に依て新事業を起し又は舊事業を擴張するは經濟の眞理に違背するとにて假令一時其事業の起るとあるも一度び補助法を廢する時は忽ち衰頹して補助なき時の舊態に復し更に其甲斐なしと云ふ他力に依て起りたる事業は恰も室內に培養したる草木の如きものふて一度び之を室外に出す時は忽ち桃紅李白の粧を失ふべし寧ろ最初より之を天然の自由ふ放任して其事の成否を試るに如かずと云ふとならん如何にも經濟の眞理に於ては論者の言の如くなるべしと雖ども大凡人間界の事物は必ずしも眞理にのみ依るとも云ふも非ず固より理外の理と云ふとは世ふあるも可らざる筈なれども人間の目を以て眞理なりと確信したる眞理の外ふ眞の眞理あるべきと斷言すべからず去れば今日英國海運の繁昌は實に天下ふ冠たりと云ふと雖ども其繁昌は決して偶然天然の自由ふ放任して以て生じたる繁昌にあらず在昔エリサベス時代の歷史を觀るふ或は噸數平均の補助金又は外國船舶の入津稅等種々樣々の方便ふ依て自國民の海運を奬勵誘導して次第ふ繁昌を來させしものあり今日ふ在てみそ英國の經濟は自由主義を以て根據と爲すが如くなれども其本を尋ぬれば曾前年の保護主義ふ依らざるものあり人爲の補助決して輕ずべからず唯事を補助すると人を補助するとの分界を正ふし以て之を濫用するとなくんば利益の廣大なる又變を容れざる所あり

（以下次號）

雜報

○プマイト氏の演說法　公衆の前に立て充分其所思を聽者に會得せしめんとす、即ち演說の目的にして演說は平生の雜話と異あれば隨てこれが法なるべからず況や政熱漸く逆上して辨論湧くが如きの時に於て敢て後れを取らざらんと欲する者に於てをや演說の心掛大切あるとあらんゝ數十年來國會場裡に馳騁して雄辨の聞え高く本年七十七歲の頹齡にして尙は下院の重位を占め居る英國の老政事家ジョン ブライト氏が此程演說の心得方を書して其友人ふ贈りたるものを見るに曰く公衆の前に演說を爲すに先ち其用意の方法は人に依り各々是ゞ己れに最も好しと思ふものを發明するとあらんあれば人々の勝手次第としてさて余の考ふる所を申せば、演說の總體を記し、又其記したるものを諳んずるは二重の苦役として余の堪へざる所なりされば、として重要なる問題を述ぶるに當り一向に無用意あるも亦輕卒として余の感服せざる所なり然らば余の用意は如何にと云ふに余は大切ありと認めたる事を演說する前には先づ聽衆に知らせまほしき點はみれ〳〵あり考へ而して演說の事實と趣意は一々みれを記されとも只三四枚の覺書に其事實と趣意の要所のみ列記して演說の折思ひ當る仕掛にあし置き其他一切の言葉は壇上にて縱橫自在に口を衝て出づる樣にするなり只極めて精密ならんと欲する所ゝ又は結論の語句などは其まゝ記すともあるべし、演說の用意てふ問題ふ就きて余の所見は以上にて殆と悉くせり思ふに右の方法は演者に充分の餘裕ありしむる上に先きに演說の圖面を製したる其要線以外ふ奔逸せしめざるの工夫なれば其云ふ所は大ふ精密あるを得て錯雜、停滯等の患なかるべし、とは云ふものゝ是迄余が目くやつて退けさる演說に就ても斯くすれば旨き演說をなし得べしとは口づから人に敎ゆると能はず蓋し妙處は無言の間に存すればあり

○此上は請負を定むるのみ　現在東京府民に飲料を供する水道は二百餘年以前に工風したるものにして隨分老朽のものなれば衞生の上より見るも經濟の上より見るも完全あらざる箇條の多きは尤もの次第に付き洋風新規の仕組に倣ふて改築すべしとは東京府內の輿論もなりたるはなれども何を云ふにも一大事業なれば容易に着手するものもあく近き兩三年來市區改正の計畫起りさるに連れ水道の事は第一其道の人の念頭に上りしみとにて是れも一時に三里四方の軒續きとも云ふべき東京全體の水道を築くとありて是は中々困難の業あれば先づ十五區內の重立ちたる場所より始む可しとの意見も出でゝ當時は五區を限り工事經費の取調を遂げたる位ゐなりしが其後は十五區內一樣に起工して市區改正と相伴はしむべき事に決し此議さへ今は不贊成論少あき模樣に付き其筋にても至極一致の方あればゐろ先日の本紙にも見えたる如く東京の水道事業に向て年々金二十萬圓づゝの保護を與へんとは內決したるよしにて水道は改築す可し改築するには十五區內全體に及ぼす可しと云ふ迄は言はず語らず既に默決したる樣子なれども只一つ事の未だ一定せざるは其水道事業を引受けて改築の任に當る者にして今後東京區部會の部內にて着手すべきや東京水道會社にて起工すべきや此事さへ相定まるの曉に至れば即ち二百餘年前の古き工風を改めて二百餘年後の新しき計畫を行ふまでふ運びたるなりと開く府會區部議員の重立ちたる人々の說には府民にて此事に着手一年々二十萬圓の保護を受けて五百萬圓の資本に六朱の利を附するとして三十萬圓なれば十萬圓丈けは區民全體に負擔せざる可らず左なきだに今後年々五六十萬圓づゝは市區改正の事業に拂出すべきものあり此上ざれば私立會社にと云ふも其實公共りとせば思ふたり水道事業に關係せず云ふに在るよし

○牧畜家親睦會　の牧畜家及地方より後二時頃より親睦峰尾勝春氏は先立に於て實施中ある大影響を與へたる七八十頭を飼養せ一頭以上を置くとに交尾期を失せし遭遇せると事實の四ケ月間位母牛の傳制限されては體格へある趣きを陳述角牛の由來より之に次第を述べ又曰く二斗五升の乳汁を十四五斤を得べく個入は七八圓に下らず多少の別あるものに大ある失敗を來すん從來我邦ふ於て餘頭牡牛二十五六頭又雜種なるもあり期して待つべしと雖さるの道理ふ均しく改良を謀らざるエンスタン氏は起て五十日を限り引離す憚る處あれば言は更に日本の食牛と殆ふ甲に十倍は殆んと食牛との價格の差りては牛乳を安直に云々等の席上演說午後八時過る頃ふ散

○送達簿を廢す　海軍りたる送達簿類は今面の往復を省き口述改せりたりと

○軍艦の電氣燈　海ひ今度他の軍艦へ孫算取調中ありと

○軍器製造　海軍十萬圓程のものを本會社、平野造船所

○軍馬國送　陸軍東北地の馬四を國送頃を奏獻せしが傳へ廻送せしめたるト

○出雲艦有志慰藉會　縣第二十二聯有志慰藉者に會得せしめんとす、即ち演說の目的にして演說

小子儀養父長男ト共ニ明八日午前六時四十分（一番汽車）新橋發洋行ス勿忙皆別ノ禮ヲ欠ク諸ンダ辱知諸君ニ謝ス

麹町區上二番町十九番地　三好退藏

三濱回漕社　濱船出帆廣告
豐國丸　大坂神戸兵庫ヱ向
十二月八日貨物積切
十二月九日品海出帆
東京小網町二丁目六番地　三濱回漕社

○麹町衞生會　演說討論　傍聽無料
來ル八日午後六時ヨリ元園町麹町小學校ニ開ク
一當銀行株式三百四十株
右ハ華族正五位子爵久世廣孫ノ有ノト今般世襲財產ト

明治廿一年　東奧日報

本社ニ於テ十二月左記ノ